

ソチ五輪に向けたオランダ女子ボブスレーチームのコーチが実施した強化策に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

桒野 真奈美

研究指導教員 平田 竹男 教授

1. 背景

ボブスレー男子は 1924 年の第 1 回冬季五輪、シャモニー大会（仏）以来、五輪の正式種目として実施されている。女子は 2002 年ソルトレイクシティ大会から正式競技となり、日本女子は 2006 年のトリノ大会で初出場を果たした。冬季五輪直近 3 大会においては女子ボブスレーでは、アメリカ、カナダ、ドイツがほぼトップ 5 を独占している状況である。ソチ大会でオランダが 4 位に入る急躍進をみせた。

ボブスレーは練習できるコースが世界にわずか 14 か所（2015 年 12 月末現在）しかなく、アメリカやドイツなど国内にコースを有する国を除いては練習環境の確保が厳しい状況にあり、オランダも自国にコースを持っていない。

IBSF（国際ボブスレースケルトン連盟、以下 IF）に登録されている競技人口については、ドイツの 147 人と突出しており、次にアメリカ 74 人、スイス 58 人、カナダ 57 人、ロシア 45 人でありオランダはロシアの半分以下の 21 人、日本は 10 人である。（2015 年 11 月末現在）

主要な国のコーチの国籍と年齢、選手時代の成績では、コーチの年齢は 50 代 60 代が多い中、ミニチェイロのみが 30 代であった。

筆者は 2006、2010 年の冬季五輪に選手（パイロット）として出場した。そこで今後、日本ボブスレーの更なる強化のために、競技人口や国内連盟規模の面で日本と類似するオランダが新しいコーチ就任後著しい躍進を見せていることに着目し、実施した強化策の詳細を知りたいと考えた。これまでボブスレーにおいては、道具、競技力等の海外比較、滑走中の空力の分野に関する研究はあるが、一国の強化策に関する研究は存在しない。

2. 目的

本研究はトリノ五輪 11 位 16 位（2 チーム出場）、バンクーバー五輪 8 位だったもののソチ五輪で 4 位に入賞し、五輪で初めて強豪国ドイツを抑えヨーロッパ勢の中でトップの成績を収める

躍進を遂げた、オランダ女子ボブスレーチームのコーチが実施した強化策を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

- 1) 対象：オランダボブスレー関係者
ソチ五輪時のオランダ女子ヘッドコーチ
(Nicola Minichiello)
- 2) データ収集方法：半構造化インタビュー
- 3) 調査項目：ヘッドコーチ就任の経緯、強化指導体制、資金戦略、長期的強化戦略、トライアウト、年間スケジュール、選手管理体制
- 4) 分析方法：対象人物に対し半構造化インタビューを実施の上、「女子代表チームの選手強化」と「オランダ連盟の体制」に着目し分析を行った。

4. 結果

1) ヘッドコーチ就任の経緯

2012 年当時、オランダ代表にはヘッドコーチが不在であった。そのような中女子のエースパイロット選手よりニコラ・ミニチェイロに対しコーチ就任の強い要望があり連盟もそれを承認し、ニコラ・ミニチェイロがコーチに就任するに至った。

2) 強化指導体制

オランダ代表チームはヘッドコーチ、マネージャー、そして非常勤トレーナーの 3 名で強化に当たっており、選手の指導に関してはヘッドコーチが、連盟や代表チーム外との交渉はマネージャーが主として行うという分業体制が取られていた。

3) 資金投入

2013/2014 年ソチ五輪シーズンにおいて、直近の成績から女子の方がメダル獲得の可能性が高いと連盟が判断し女子チームにのみ資金が配分されていた。

4) 長期的戦略

ミニチェイロは 4 年サイクルで強化策を作り、各年の滑走本数、出場大会を極めて明確にした上で強化を行っていた。

5) トライアウト

トライアウトは国内の3会場で行いジャンプ、スプリント、パワー能力を測るテストを実施していた。トライアウト以外にも有望な選手には、直ちにミニチェイロが接触しテストと面接が行われていた。選手の性格も重視していた。

6) 合宿

ミニチェイロは年間契約をしていたことから、年間シーズンを通しソチ五輪から逆算をした計画(表1)を立て、オフシーズン期間のみで計2か月弱に及ぶ合宿を行っていた。

表1 オランダ女子年間計画 概略

	3月	8月	2月
合宿	←————→ ← 滑走 →		
テスト		● ● ● ● ●	
試合			←————→
強化点	基礎	パワー 最大筋力+スピード	維持

7) 選手管理体制

年間を通して選手のトレーニング管理やメンタル管理、生活習慣等の指導を実施していた。

8) ユース育成

早期に選手を発掘し、対象選手を4人に絞り徹底的に強化方針を決め集中して強化を行い金メダルと銅メダルを獲得した。

5. 考察

オランダ女子ボブスレーチームの強化策の中で、特徴的な取り組みにはトライアウト、資金戦略、合宿、選手管理の4点について、考察する。

1) トライアウト

オランダの実施回数は、アメリカ等の強豪国と比べ少ないが、ヘッドコーチのミニチェイロが直接陸上等の大会に足を運び、目をつけた選手にトライアウトを受けるよう、積極的に交渉をしていた。トライアウトを受ける選手をヘッドコーチ自身がスカウトすることはオランダのみで行われていることだった。合格者は強豪国より少数だが、結果を残せていた。何度も出向き良い選手だけをとるといふ、ミニチェイロの選手発掘の努力により、効率よく有能な選手獲得を行っていたと推察

される。日本も他競技大会を赴き選手の発掘を積極的に行うことや、他国と同等の合格基準を満たす走力・瞬発力・パワーが高いレベルの選手を選ぶべきであろう。他競技のNFなどと人的ネットワークを構築し横の繋がり強化がボブスレーチームを強くする可能性がある。

2) 合宿

オランダが他国にはできない年間を通じての合宿できたのは、ミニチェイロは年間を通じた契約を結んでいたこと、および選手がボブスレー専門選手であったことが影響していると推察される。また、日本もたとえばオフシーズンの夏に長期間トレーニング合宿を実施したならば、競技に特化した技術力やチーム作りも可能になり、一層の強化につながると考える。

3) 選手管理体制

強豪国が選手の自主性に任せるのに対して、オランダは徹底的に管理していた。練習メニューだけでなく、メンタルの状態の報告、大会本番にピークをもっていくコンディション調整が躍進に繋がったと考えられる。日本においても1年間全体を俯瞰した強化プランを作成し特に夏季期間の厳格な選手管理を行うことなどは強化の一策になると考える。

4) 資金投入戦略

限られた資金が女子チームに限定的に使われていた。日本でも限りある資金の使途を更に精査した上で選択と集中を図ることは有効であろう。

6. 結論

ボブスレーの先進国でないもののソチ五輪で顕著な躍進をみせたオランダ女子ボブスレーチームのコーチが実施した強化策は、ヘッドコーチ自らが発掘した選手に実施する「トライアウト」、年間を通じての「合宿」、メンタル管理までを含んだ徹底した「選手管理」、女子チームだけに集中した資金投入を行った「資金戦略」のソチ以前の五輪大会に向けては実施していなかった強化策が行われていたことが明らかとなった。